

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4491000057		
法人名	社会福祉法人一心会		
事業所名	グループホームやまが苑 西ユニット		
所在地	大分県杵築市山香町大字野原1405番地6		
自己評価作成日	令和6年12月12日	評価結果市町村受理日	令和7年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和7年1月17日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然環境に恵まれ四季の移り変わりを感じながら、その方らしく穏やかに過ごしていただける様に努めています。一人一人に合わせたレクリエーションや外出を取り入れ今の状態が維持できるように努めています。敷地内に養護老人ホームやデイサービスがあり、地域の行事等もお互いに協力しながら交流を図っています。コロナの影響もありますが苑内での行事やカラオケ・家庭菜園などを行い日々変化のある暮らしを送っています。近隣に協力病院があり普段の受診から緊急時にも対応できるように連携を図っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・自然豊かな環境で敷地内には老人ホームやディサービスの施設があり、苑内のつながりも密でありお互いの交流が図れている。
- ・職員の特技を生かし、髪染めや美顔マッサージなど寄り添って支援されている。
- ・家庭的で一緒に利用者の希望を實踐に繋げている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

西ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念と地域密着型に基づいた施設理念を掲げている。施設理念については、その時の状況に合わせて修正・追加し、実状に沿った支援を行っている	理念は玄関ホールに掲示され練和5年に見直された理念の元、人権、地域密着を主体とした支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症5類以降、日常生活も緩和されボランティアの受け入れを定期的に行っており地域の方やなじみのある方との交流を図っている。また地域の行事に積極的に参加出来る事が多くなってきている。	自治会の加入もあり地域のお祭りおみこしの折りには人手の依頼もあり。事業所自体が地域の人々と交流もあり積極的に日常交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	共用型デイサービスやショートステイを整備し、他事業所で受け入れの難しい認知症状のある方を受け入れる様にしている。災害や家族の事情などでの緊急的なショートステイにも対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は対面の開催を2ヶ月に1回行っている。施設の現況報告・事故報告など取組状況を報告し意見を求めている。いただいた意見は早急に検討し改善に努めている。	2か月に一回対面で行われている。利用者のリスク事例から転倒防止に向けて椅子の購入につながり、運営推進会議の取り組みサービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での報告や他の場合でも相談・報告を行っている。困難事例や重大な事故につながる事案は相談を行い日頃から協力関係を築いている。	市町村の担当者に事業所の状況報告や相談をし助言やアドバイスを受けている。ネグレクト事例をケアマネに連絡し情報共有する事で協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月毎もしくは必要に応じて身体拘束廃止委員会で現在身体拘束が無いかを確認している。また委員会主催で内部研修を行い、身体拘束の無い施設作りが出来る様に情報を共有している	サービス向上委員会、リスク委員会との共同で実践研修を行いいつも使う言葉を客観的にとらえ支援に繋げている。言葉で押さえないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月毎もしくは必要に応じて虐待防止委員会で現在虐待が無いかを確認している。また委員会主催で職員会議の際に勉強会を行い、虐待の無い施設作りが出来る様に情報を共有し積極的に取り組んでいる。		

事業者名:グループホームやまが苑(西ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在安心サポートを利用されている方がおられないが、外部研修において学び得たことを、内部研修において、情報の共有と知識を習得し共通理解としている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に契約書・重要事項説明書に沿って分かりやすく説明できるように努めている。解約・改定の際も理解・納得できるように十分な説明を行うように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に入居者代表・家族代表に参加していただき意見や要望を言える機会を設けている。また毎月の井戸端会議や家族の面会の際に入居者の行きたいところなど意見・要望を聞き出し行事の開催や食事メニューなどに反映している。	2か月に一回広報誌を発行し転倒等の事故面会についての意見に答えている。利用者家族の意見要望を食の楽しみや外出支援に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1年間に数回代表者との面談を行い職員の意見を聞く機会を設けている。また職員会議やユニット会議の中で意見が言える環境作りを行い、その意見や提案を支援の中反映できる様努力している。	管理者が現場に足を運び話を聞き現状を知る事に努めている。家族の看病で長期休暇希望もなかった事例もあり。意見要望の言える環境にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に研修計画を作成し、そのことを基に面談し職員自ら希望する研修へ参加できるように配慮している。また役職者等には能力に応じた研修へ参加できるように声を掛けている。職務分担を行い、仕事分担の平等性と効率性に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画に沿って、本人の能力に見合った研修へ参加できるように心がけている。外部研修参加後は、内部研修を行い報告し情報共有を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内で開催される連携会議や市町村主催の研修へ参加し交流する場所を設けている。また他事業所へ入居の申し込みの際に訪問し情報共有や交流を行いサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談の際に本人の不安や困り事やご要望を聞き出し、安心して入居へ繋げられるように努めている。また仏壇やタンスなど馴染みのある物を持ち込める旨を説明し、少しでも落ち着けるまた、安心できる環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談にて家族より不安に思っている事を聞き出し契約を交わす前に不明な点が無いか確認を行い、なるべくわかりやすい説明を行う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族の現在必要なケアを見極め状況に応じて他のサービスの紹介等を行うなど相談に乗っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの入居者様の日常生活能力に合わせて、役割を持っていただく場面作りを行い、職員とともに協力しながら生活ができる様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	居室担当者が月に1回顔写真付きの近況報告書を作成し、身体の状況や行事の取組の様子などをお伝えしている。また状況の変化があれば直ぐに電話にてお伝えしている。面会時にも近況をお伝えし急変時の場合の協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様一人ひとりの生活歴を把握し、その方にあった支援が出来る様に心がけている。馴染みの理容店がある方は訪問理容ではなく馴染みの理容店に行けるように支援し、また地域の催し物には参加をし、地域の方と触れ合えるような機会を作っている	馴染みの方と窓ごしの面会も可能になり祭りで訪れた知人との交流も行っている。馴染みの方との電話での交流支援もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を見極め、席を配慮している。トラブルがあった場合は席替えを行い一人ひとりが落ち着いて生活を送れるように努めている。会話の難しい方には職員が間に入り会話の間に入り橋渡しを行うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要であれば相談にのり、いつでも立ち寄れるようにお声がけをしている。長期の入院者に関しては洗濯物を引き受けている。また他施設へ転設の際は、今までの支援が変わらない様に情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の様子や生活の中で、一人ひとりの思いや希望を把握するように努めている。意向などご自身で伝えられない場合は表情にて気持ちを汲み取ったり、ご家族に趣味や好きなこと等を聞き支援へと繋げている。	利用者との日常会話から情報収集し食べ物のお話で盛り上がりラーメン、回転寿司、教える子の饅頭屋さん等の購入や外食の支援にも繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族・ケアマネより情報収集を行い、その方の生活歴を把握するように努めている。集めた情報は職員全員で共有できるように、回覧やケア会議等を活用し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で一人ひとりのできる事を、モニタリング、アセスメントし、現在行えることは継続して自身で行えるように支援している。有する力によって役割を持てるように支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族様の意見や要望等をお聞きし、現在の支援がご本人にとって必要なものか評価をしながら介護計画を作成している。また担当者会議の中で職員の意見やアイデアを反映できるように環境作りをしている。	思いや意向を現状を見ながら伝達ノートやユニット会議で得られた情報を基に支援に繋げ反映させている。課題に対しての援助内容が細かく記入されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきやアイデア・改善点など短時間でも話し合いの中やメモ欄に記載し、いつでも職員間で情報共有ができる様にしている。個別の記録については毎日記入を行い、特変あった場合は特記事項として記入し申し送りを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ショートステイが出来る環境を整え、ご家族の急な要望にも応えられるようにしている。マンツーマンの個別介護が必要な場合は、職員の出勤時間を変更するなど柔軟な対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の理美容や買い物に行けるように支援している。他施設ミニデイの催し物への参加や、市町村にて開催しているお祭りや、文化祭等に参加できる機会を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医で受診が継続して行える様に看護師を中心に行っている。受診の同行を希望される家族は同行をお願いし医師からの説明と一緒に聞いていただくなどの対応をしている。また、受診の結果について、適宜ご家族様へ報告し状況説明を行っている	利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診支援が行われている。受診は職員が対応し市外の受診や手術等が必要時は家族対応を基本としている。結果は都度、家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、早急に対応が出来る体制が出来ている。また併設施設の看護師にも対応をお願いし相談や処置など継続的に行う事が出来ている。不在の際、連絡により連携を取れる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は杵築市独自の医療・介護情報共有シートにて情報を共有し苑での支援方法を伝えている。またカンファレンスを行う際は同席し退院後の支援がスムーズに行う様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に入居者が重度化した場合における対応について説明を行い、その状態に応じて再度話し合いを持つ旨伝えている。入院等で状態の変化があれば早急にご家族と話し合う場を持ち、今後の意向を伺えるようにしている。	事業所利用開始時、重要事項説明書を基に行っている。状況の変化に応じ利用者の家族の思いに添った支援に努めている。救急時は病院対応の方向で看取りはしていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えて研修を重ね、緊急対応の手順を確認学ぶ機会を設けている。また委員会にて感染症やその他の対応法を内部研修し、定期的に学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力を得て防災訓練を行い、初期対応・通報・避難などを確認している。う夜間想定避難訓練を行い確認している。また地域の協力体制については運営推進会議の場でお願いをしている。また、事業継続計画を整備し、机上訓練を重ね緊急時に備えた対応ができる様努めている。	年二回防災訓練を行い学びの機会を持っている。小中学校が避難所になっており、近くにも避難場所がある。BCP玄関に掲示し机上訓練も行っている。備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	サービス向上・接遇マナー委員会を設置し声掛けや対応について話し合い・確認を行っている。その中で出た意見は職員会議の場で報告し丁寧な声掛けを行う様に周知している。また排泄・入浴の際などプライバシーを損なわないよう配慮を行っている。	本人の気持ちを大切に考え、さりげないケアを心がけ支援している。守秘義務に責任ある取り扱いを徹底している。利用者の尊厳や思いを大切に声掛けに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で一人ひとりの能力に応じて自己決定が出来るように環境作りを行っている。思いを伝える事が難しい入居者に関しては表情や状態を観察し、本人の思いをくみ取れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の行事や入居者様の状況を考え、職員都合で支援を行わないように入居者様のペースで日々の生活が送れるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居前に通っていた理美容院に行けるように支援を行っている。また、約2カ月前から美容師を依頼し施設での散髪を行っている。入浴の際は衣服の準備を職員と一緒に行ったり入浴後は保湿クリームや化粧水を使うように準備している。また愛用している化粧品がある場合は職員が購入し用意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	給食委員会や井戸端会議で食べたいものや嗜好品の調査を行い栄養士へ報告し意見を反映している。食事内容によっておにぎりを握ってもらったり盛り付けを一緒に行っている。当施設の畑で収穫したかぼちゃやさつまいもを使用し、定期的におやつ作りやだんご汁作りを行い食事を楽しむ機会を設けている。	三食外部委託であるが食器は色々な形や模様の皿を準備して使っている。施設の畑で収穫したかぼちゃやさつまいもでおやつ作りをする事もある。団子汁など食べる事を楽める工夫に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量・水分量が把握できるように毎日の記録に記載し確認を行っている。嚥下能力に応じてトロミ剤を使用したり、水分ゼリーにて支援を行っている。水分の好みを把握し個々に応じた水分を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けにて行ってもらい必要に応じて介助を行い口腔内の清潔を保持している。毎日の義歯消毒を行い管理を行っている。磨き残しや入れ歯の洗浄等出来ない部分についてケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し一人ひとりの能力に合わせた排泄介助を行っている。残存機能を生かし誘導が困難な方には2人介助を行うなどの支援を行っている。	共用トイレは広く介助しやすい作りになっている。フロア横にトイレが三カ所ありトイレでの排泄支援に努めている。オムツの方はおらず紙パット類も本人に合わせ検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策として起床後に牛乳等の水分を提供し排便を促している。また日々の中で体操を日課とし活動を行う事で便秘予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の際は職員と一緒に衣服の準備を行い入居者の希望の時間に浴槽に入浴できるように努めている。浴槽に入ることが困難な入居者には2人介助にて対応し安全に入浴できるように支援を行っている。	週2～3回の個浴で支援されている。本人のリズムに合わせた入浴で染髪希望にも答えている。季節でゆず湯、バラ湯を楽しむ事も考えられている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間ゆっくりと休めるように照明の調整を行うなどの配慮をしている。夜間寝付けない場合はホールにて過ごしてもらうなど個々に応じた対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服薬の内容が分かるようにファイルに綴じいつでも閲覧できるようにしている。服薬マニュアルを作成し基本の手順を確認するとともに個々に応じた内服支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に趣味や好きな事などを聞き入居後も取り組めるように支援している。また役割としてその方に能力に応じた軽作業などを職員と一緒にやっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	井戸端会議や普段の生活の中で行きたい場所や思い入れのある場所を聞き出し反映できるようにしている。また普段の外気浴やドライブなどで気分転換を行っている。	施設前に庭があり、かぼちゃ、芋など野菜作りをしながら外気浴を楽しんでいる。通路の共有スペースに座り景色を見ながら話すことも楽しみになっている。可能な限り思いに添えるよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設管理としているが入居者の力に応じて買い物に行った際には財布を渡し支払いを行ってもらっている。金銭の入出を気にされる方には出納長の記録を一緒に行って確認を行ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の訴えがあった際には可能な限り対応できるように支援している。面会が制限されている時期に他の用事で家族より電話があった際には取り次ぐなどの配慮をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月のカレンダー作りや季節感のある壁面飾りを通して四季を感じられるように工夫を行っている。施設内の照明の調光やテレビの音量などの配慮を行っている。	共有空間には手作りの大きなカレンダーが貼られており行事や皆で作った既設の作品が掲示されている。共有スペースの中でも個々の居場所がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを設置し一人になりたり気の合う方と会話を行う事が出来る環境作りを行っている。渡り廊下にベンチを設置し外気浴が出来る様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時に馴染みのある物や使い慣れた物を持ち込める旨を説明している。個々の能力に応じた居室位置に入居できるように配慮している。	各々の部屋がわかりやすい様各自の物がある。本人の思いを大切にされた物が置かれている。ディサービスで作った作品を居室に飾っている。居心地よく過ごせる様に工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内はバリアフリーになっており段差のない作りになっている。居室入口には表札を置き自身の居室がわかるようにしている。浴室やトイレも認識しやすく、手すりなどを設置し少しでも自立した生活が送れるように配慮している。		

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4491000057		
法人名	社会福祉法人一心会		
事業所名	グループホームやまが苑 東ユニット		
所在地	大分県杵築市山香町大字野原1405番地6		
自己評価作成日	令和6年12月12日	評価結果市町村受理日	令和7年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和7年1月17日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然環境に恵まれ四季の移り変わりを感じながら、その方らしく穏やかに過ごしていただける様に努めています。一人一人に合わせたレクリエーションや外出を取り入れ今の状態が維持できるように努めています。敷地内に養護老人ホームやデイサービスがあり、地域の行事等もお互いに協力しながら交流を図っています。コロナの影響もありますが苑内での行事やカラオケ・家庭菜園などを行い日々変化のある暮らしを送っています。近隣に協力病院があり普段の受診から緊急時にも対応できるように連携を図っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【グループホームやまが苑 西ユニット】に記載

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

東ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念と地域密着型に基づいた施設理念を掲げている。施設理念については、その時の状況に合わせて修正・追加し、実状に沿った支援を行っている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症5類以降、日常生活も緩和されボランティアの受け入れを定期的に行っており地域の方やなじみのある方との交流を図っている。また地域の行事に積極的に参加出来る事が多くなってきている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	共用型デイサービスやショートステイを整備し、他事業所で受け入れの難しい認知症状のある方を受け入れる様にしている。災害や家族の事情などでの緊急的なショートステイにも対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は対面の開催を2ヶ月に1回行っている。施設の現況報告・事故報告など取組状況を報告し意見を求めている。いただいた意見は早急に検討し改善に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での報告や他の場合でも相談・報告を行っている。困難事例や重大な事故につながる事案は相談を行い日頃から協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月毎もしくは必要に応じて身体拘束防止委員会で現在身体拘束が無いかを確認している。また委員会主催で内部研修を行い、身体拘束の無い施設作りが出来る様に情報を共有している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月毎もしくは必要に応じて虐待防止委員会で現在虐待が無いかを確認している。また委員会主催で職員会議の際に勉強会を行い、虐待の無い施設作りが出来る様に情報を共有し積極的に取り組んでいる。		

事業者名:グループホームやまが苑(東ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在安心サポートを利用されている方がおられないが、外部研修において学び得たことを、内部研修において、情報の共有と知識を習得し共通理解としている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に契約書・重要事項説明書に沿って分かりやすく説明するように努めている。解約・改定の際も理解・納得できるように十分な説明を行うように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に入居者代表・家族代表に参加していただき意見や要望を言える機会を設けている。また毎月の井戸端会議や家族の面会の際に入居者の行きたいところなど意見・要望を聞き出し行事の開催や食事メニューなどに反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1年間に数回代表者との面談を行い職員の意見を聞く機会を設けている。また職員会議やユニット会議の中で意見が言える環境作りを行い、その意見や提案を支援の中反映できる様努力している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に研修計画を作成し、そのことを基に面談し職員自ら希望する研修へ参加できるように配慮している。また役職者等には能力に応じた研修へ参加できるように声を掛けている。職務分担を行い、仕事分担の平等性と効率性に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画に沿って、本人の能力に見合った研修へ参加できるように心がけている。外部研修参加後は、内部研修を行い報告し情報共有を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内で開催される連携会議や市町村主催の研修へ参加し交流する場所を設けている。また、他事業所へ入居の申し込みの際に訪問し情報共有や交流を行いサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談の際に本人の不安や困り事やご要望を聞き出し、安心して入居へ繋げられるように努めている。また仏壇やタンスなど馴染みのある物を持ち込める旨を説明し、少しでも落ち着けるまた、安心できる環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談にて家族より不安に思っている事を聞き出し契約を交わす前に不明な点が無いか確認を行い、なるべくわかりやすい説明を行う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族の現在必要なケアを見極め状況に応じて他のサービスの紹介等を行うなど相談に乗っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの入居者様の日常生活能力に合わせ、役割を持っていただく場面作りを行い、職員とともに協力しながら生活ができる様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	居室担当者が月に1回顔写真付きの近況報告書を作成し、身体の状況や行事の取組の様子などをお伝えしている。また状況の変化があれば直ぐに電話にてお伝えしている。面会時にも近況をお伝えし急変時の場合の協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様一人ひとりの生活歴を把握し、その方にあった支援が出来る様に心がけている。馴染みの理容店がある方は訪問理容ではなく馴染みの理容店に行けるように支援し、また地域の催し物には参加をし、地域の方と触れ合えるような機会を作っている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を見極め、席を配慮している。トラブルがあった場合は席替えを行い一人ひとりが落ち着いて生活を送れるように努めている。会話の難しい方には職員が間に入り会話の間に入り橋渡しを行うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退後も必要であれば相談にのり、いつでも立ち寄れるようにお声がけをしている。長期の入院者に関しては洗濯物を引き受けている。また他施設へ転設の際は、今までの支援が変わらない様に情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の様子や生活の中で、一人ひとりの思いや希望を把握するように努めている。意向などご自身で伝えられない場合は表情にて気持ちを汲み取ったり、ご家族に趣味や好きなこと等を聞き支援へと繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族・ケアマネより情報収集を行い、その方の生活歴を把握するように努めている。集めた情報は職員全員で共有できるように、回覧やケア会議等を活用し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で一人ひとりのできる事を、モニタリング、アセスメントし、現在行えることは継続して自身で行えるように支援している。有する力によって役割を持てるように支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族様の意見や要望等をお聞きし、現在の支援がご本人にとって必要なものか評価をしながら介護計画を作成している。また担当者会議の中で職員の意見やアイデアを反映できるように環境作りをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきやアイデア・改善点など短時間でも話し合いの中やメモ欄に記載し、いつでも職員間で情報共有ができる様にしている。個別の記録については毎日記入を行い、特変あった場合は特記事項として記入し申し送りを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ショートステイが出来る環境を整え、ご家族の急な要望にも応えられるようにしている。マンツーマンの個別介護が必要な場合は、職員の出勤時間を変更するなど柔軟な対応を心がけている。		

事業者名:グループホームやまが苑(東ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の理美容や買い物に行けるように支援している。他施設ミニデイの催し物への参加や、市町村にて開催しているお祭りや、文化祭等に参加できる機会を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医で受診が継続して行える様にしている。受診の同行を希望される家族は同行をお願いし医師からの説明を一緒に聞いていただくなどの対応をしている。また、受診の結果について、適宜ご家族様へ報告し状況説明を行っている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、早急に対応が出来る体制が出来ている。また併設施設の看護師にも対応をお願いし相談や処置など継続的に行う事が出来ている。不在の際、連絡により連携を取れる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は杵築市独自の医療・介護情報共有シートにて情報を共有し苑での支援方法を伝えている。またカンファレンスを行う際は同席し退院後の支援がスムーズに行う様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に入居者が重度化した場合における対応について説明を行い、その状態に応じて再度話し合いを持つ旨伝えている。入院等で状態の変化があれば早急にご家族と話し合う場を持ち、今後の意向を伺えるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えて研修を重ね、緊急対応の手順を確認学ぶ機会を設けている。また委員会にて感染症やその他の対応法を内部研修し、定期的に学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力を得て防災訓練を行い、初期対応・通報・避難などを確認している。う夜間想定避難訓練を行い確認している。また地域の協力体制については運営推進会議の場でお願いをしている。また、事業継続計画を整備し、机上訓練を重ね緊急時に備えた対応ができる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	サービス向上・接遇マナー委員会を設置し声掛けや対応について話し合い・確認を行っている。その中で出た意見は職員会議の場で報告し丁寧な声掛けを行う様に周知している。また排泄・入浴の際などプライバシーを損なわないよう配慮を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で一人ひとりの能力に応じて自己決定が出来るように環境作りを行っている。思いを伝える事が難しい入居者に関しては表情や状態を観察し、本人の思いをくみ取れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の行事や入居者様の状況を考え、職員都合で支援を行わないように入居者様のペースで日々の生活が送れるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	約2カ月外部から美容師を依頼し施設での散髪を行っている。入浴の際は衣服の準備を職員と一緒にしたり入浴後は保湿クリームや化粧水を使えるように準備している。また愛用している化粧品がある場合は職員が購入し用意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	給食委員会や井戸端会議で食べたいものや嗜好品の調査を行い栄養士へ報告し意見を反映している。食事内容によっておにぎりを握ってもらったり盛り付けを一緒に行っている。当施設の畑で収穫したかぼちゃやさつまいもを使用し、定期的におやつ作りやだんご汁作りを行い食事を楽しむ機会を設けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食量・水分量が把握できるように毎日の記録に記載し確認を行っている。嚥下能力に応じてトロミ剤を使用したり、水分ゼリーにて支援を行っている。水分の好みを把握し個々に応じた水分を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けにて行ってもらい必要に応じて介助を行い口腔内の清潔を保持している。毎日の義歯消毒を行い管理を行っている。磨き残しや入れ歯の洗浄等出来ない部分についてケアを行っている。		

事業者名:グループホームやまが苑(東ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し一人ひとりの能力に合わせた排泄介助を行っている。残存機能を生かし誘導が困難な方には2人介助を行うなどの支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策として起床後に牛乳等の水分を提供し排便を促している。また日々の中で体操を日課とし活動を行う事で便秘予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の際は職員と一緒に衣服の準備を行い入居者の希望の時間に沿って入浴できるように努めている。その日の気分で入りたくない方は、無理強いをせず、入りたい時に入れるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間ゆっくりと休めるように照明の調整を行うなどの配慮をしている。夜間寝付けな場合はホールにて過ごしてもらうなど個々に応じた対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服薬の内容が分かるようにファイルに綴じいつでも閲覧できるようにしている。服薬マニュアルを作成し基本の手順を確認するとともに個々に応じた内服支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に趣味や好きな事などを聞き入居後も取り組めるように支援している。また役割としてその方に能力に応じた軽作業などを職員と一緒にやっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	井戸端会議や普段の生活の中で行きたい場所や思い入れのある場所を聞き出し反映できるようにしている。また普段の外気浴やドライブなどで気分転換を行っている。家族の協力で一緒にゆっくり外出出来るようにしている。		

事業者名:グループホームやまが苑(東ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設管理としているが入居者の力に応じて買い物に行った際には財布を渡し支払いを行ってもらっている。金銭の入出を気にされる方には出納長の記録を一緒に行き確認を行ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の訴えがあった際には可能な限り対応できるように支援している。面会が制限されている時期に他の用事で家族より電話があった際には取り次ぐなどの配慮をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月のカレンダー作りや季節感のある壁面飾りを通して四季を感じられるように工夫を行っている。施設内の照明の調光やテレビの音量などの配慮を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを設置し一人になりたい時や、気の合う方と会話を行う事が出来る環境作りを行っている。渡り廊下にベンチを設置し外気浴が出来る様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時に馴染みのある物や使い慣れた物を持ち込める旨を説明している。個々の能力に応じた居室位置に入居できるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内はバリアフリーになっており段差のない作りになっている。居室入口には表札を置き自身の居室がわかるようにしている。浴室やトイレも認識しやすく、手すりなどを設置し少しでも自立した生活が送れるように配慮している。		